

1 本年度の重点教育目標

『よりよく関わり合いながら 確かな力を身に付ける子ども』の育成

2 本年度の取組の重点

- (1) 教育目標や重点教育目標の実現を目指し、学校運営組織の活性化に努める。
- (2) 地域の教育環境を生かした創意と調和のある教育課程経営の推進に努める。
- (3) 子どもの変容と教師の指導力向上を高める研修活動の充実に努める。
- (4) 子ども一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実に努める。
- (5) 職員の創意を生かした潤いと温もりのある教育環境づくりに努める。
- (6) 家庭・地域及び幼稚園・保育園・中学校との連携を深める等、開かれた経営に努める。
- (7) 健康管理と危機管理意識の高揚を図り、生命尊重に努める。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		概況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の旗の評価	主な意見（改善策など）
①確かな学力を育む教育の推進	楽しく分かる授業を通して、自ら学び解決する力を育てる学習指導を推進することができたか。	b	・地域の特性を生かした創意ある教育課程を編成し、楽しく分かる授業を通して自ら学び解決する力を育てる学習指導に努める。	A	A	
	学力の定着・向上を図る学習指導の工夫改善を推進することができたか。	a	・学校課題に対する共通理解と計画的な研修活動に努める。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	A	A	個別最適な学びを、授業づくりをとおして創り上げてほしいです。
②豊かな心を育む教育の推進	学校の教育活動全般を通して、道徳的な判断力や実践力の向上を図ることができたか。	a	・道徳教育を中心に、授業の工夫や改善を協働して協議し、判断力や実践力の向上に努める。	A	A	
	コミュニケーションの基本としての挨拶や返事などを通し、公共心、社会性を育むことができたか。	b	・学習規律への位置付けや特別活動等を通して、指導・改善に努める。	B	A	
③健やかな体を育む教育の推進	望ましい生活習慣の定着や健康や体力の向上を図る活動を推進することができたか。	b	・各種調査の結果を踏まえ、感染予防策を講じながら、休み時間の遊びや体育授業での体力づくり運動等を行う。	A	A	
	安全や情報モラルに関する教育活動を推進することができたか。	a	・関係機関と連携した避難訓練の安全指導の他、日常の指導等を通じて安全教育を推進する。	A	A	
④学校における指導体制等の充実	学びの場にふさわしい校内外の美化や児童への言葉かけ等指導環境や体制の充実に努めることができたか。	a	・潤いのある校内掲示と校内外の美化と整理に努める。児童への言葉かけ等、潤いとぬくもりのある環境や体制を整備する。	A	A	
	学校における働き方改革に向けた取組を進めることができたか。	b	・職員の努力により勤務超過時間の縮減を図ることができた。今後さらなる業務の精選や効率化を図っていく。	A	A	業務の効率化のみだけでなく、学校づくりをしっかりと全教職員で考えてほしいです。
⑤家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティ・スクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	a	・学校と町会が連携し見守り活動、避難訓練、放課後学習サポート等の取組が進んだ。今後さらに取組を進める。	A	A	・子どもたちはいつも元気に挨拶してくれて嬉しいです。・成果を共有することで活動の幅が広がるように思います。地域ボランティアの活用した取組に期待します。
	家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標・学校運営の基本方針を共有し取組を推進することができたか。	b	・学校運営協議会や学校だよりを通じて、本校の目指す子ども像等を明示した。達成状況をアンケートで児童、教職員、保護者で振り返り取組を検証・改善する。	A	A	・先生方のご負担をあまり増やさない方がよいのではと思います。・子どもたちの成長を肌感覚で感じられる場づくりを学校だけでなく青柳ネット全体で考えていきたいです。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。